

令和元年6月24日現在

機関番号：34602

研究種目：基盤研究(C) (一般)

研究期間：2015～2018

課題番号：15K02921

研究課題名(和文) 朝鮮中近世の水陸交通体系とその利用に関する基礎的研究

研究課題名(英文) Basic research on the transportation system and its utilization in the Joseon Dynasty

研究代表者

長森 美信 (NAGAMORI, Mitsunobu)

天理大学・国際学部・教授

研究者番号：50412135

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 3,100,000円

研究成果の概要(和文)：古地図を含む朝鮮前近代の歴史地理関連資料を収集し、そこにあらわれる地名を調査するとともに現地比定作業を行い、データベースを作成した。また事例研究として国王の陵幸、士族の旅の記録を分析し、その成果を学会発表および論文のかたちで公表した。

なお、韓国釜山広域市、ソウル特別市、京畿道水原市および長崎県対馬市において現地調査を行った。釜山および対馬では、文献資料に見られる朝鮮伝統技術による外洋航行の様相を確認し、ソウルおよび水原では文献資料に見られる王の陵幸路を現地調査によって確認できた。

研究成果の学術的意義や社会的意義

朝鮮における交通路および交通手段は、開港期～植民地期の鉄道敷設、幹線道路の整備、蒸気船の導入等によって一変したといわれる。しかし「一変」する以前、つまり植民地期以前の交通路および交通手段の実態については実は不明な点が多かった。本研究では、朝鮮時代の歴史地理資料に対する考察をふまえ、人と物の移動の事例研究を通じて交通の実態を究明するとともに、当時の交通路の一部を歴史地理学的手法を用いて地図上に復元した。その成果は極めて限られたものだが、朝鮮前近代交通史のみならず、隣接地域・隣接分野の研究に資することが期待される。

研究成果の概要(英文)：I collected historical geography related data of early modern Korea including old maps, searched the names of places appearing there, performed area identification work, and created a database. As a case study, I analyzed the road to the tomb of the king, the voyage records, and presented the results in the form of a conference presentation and a thesis.

I conducted field surveys in Busan, Seoul, Suwon, Gyeonggi-do, and Tsushima. In Busan and Tsushima, I confirmed the sea route and voyage technique found in the old documents. In Seoul and Suwon, I confirmed the road to Royal tomb's seen in old documents by the field survey.

研究分野：朝鮮史

キーワード：朝鮮史 東洋史 交通史 歴史地理

様式 C - 19、F - 19 - 1、Z - 19、CK - 19 (共通)

1. 研究開始当初の背景

朝鮮における交通路および交通手段は、開港期～植民地期の鉄道敷設、幹線道路の整備、蒸気船の導入等によって一変したといわれる。しかし「一変」する以前、つまり植民地期以前の交通路および交通手段の実態については実は不明な点が多い。

研究代表者は17～19世紀を中心とする朝鮮近世交通史、なかでも船を利用した海上・水上交通分野の研究を進め、平成18～20年度には科学研究費補助金「朝鮮近世の交通に関する歴史地理学的研究」(若手研究(B)課題番号18720196)、平成23～26年度には同「朝鮮近世の交通路と交通手段に関する基礎的研究」(若手研究(B)課題番号23720355)の交付を受けることができた。そして如上の研究を進める過程で、朝鮮交通史研究に大きな空白が残されていることが明白になった。

本研究開始時までには、研究代表者が研究を進めてきた具体的主題は次の7点に整理できる。

朝鮮半島沿岸航路の復元

主要沿海浦口(港)の位置と歴史的位相

主要河川の浦口(川港)および津渡(渡し)の歴史地理学的研究

朝鮮時代の船舶の類型化と使臣船(通信使船)の船体構造

植民地朝鮮で使用されていた伝統漁船の船体構造

濟州島 陸地間における進上品や賑恤穀の輸送実態

全羅道地域における船を利用した交易の様相

このうち、は交通路、は船舶(交通手段)、はそれらを利用した人と物の移動に関する研究であった。本研究では、(1)朝鮮中近世交通路の研究、(2)朝鮮伝統船とその運用体系に関する研究、(3)人と物の移動に関する事例研究を、それぞれ深化・発展させ、学界に広く貢献することを目的とした。

2. 研究の目的

(1)朝鮮中近世交通路の研究

歴史資料に見える地名を地図と対照するためには歴史地図が必要である。しかし、日本はもちろん、大韓民国・朝鮮民主主義人民共和国においても、学術研究にたえ得る高精度の朝鮮歴史地図はまだ存在しない。研究代表者も朝鮮近世の沿海航路図を作成したことがあるが、単一縮尺による朝鮮沿海航路の概略図を示すにとどまり、内陸河川水路や陸路については部分的にしか扱うことができなかった。

本研究の第一の目的は、これまでの研究代表者の研究を土台としつつ、海路のみならず、陸路および内陸水路を含めた朝鮮時代の主要交通路を地図上に復元することであった。

(2)朝鮮伝統船とその運用体系に関する研究

交通路とともに交通手段としての船を重視する。研究代表者は、これまで同分野における既存研究の成果を分析するとともに、20世紀前半に使用されていた伝統漁船の船体構造を考察し、それが朝鮮時代の船と大きく変わらないことを明らかにしたが、まだ研究は緒に就いたばかりであった。

朝鮮伝統船研究が不振な理由は資料の少なさにある。そこで本研究では、日本や中国等に漂着した朝鮮船の記録、朝鮮時代の絵画資料、19～20世紀の絵葉書や写真資料に注目した。本研究では、これらの史資料を総合的に分析することで、朝鮮伝統船の具体像を復元するとともに、

日本や中国の伝統船と比較研究することによって、朝鮮船の特質を明らかにしようとした。

(3) 人と物の移動に関する事例研究

朝鮮中近世の交通路・交通手段を利用した人と物の移動に関する事例研究を行う。これまで研究代表者は17～18世紀の全羅道および済州地域を主な対象として進上品や賑恤穀の輸送、交易の事例研究を行った。本研究では、事例研究の対象時期および対象地域を拡大して研究を進めることとした。

3. 研究の方法

- (1) 資料調査：朝鮮中近世の歴史地理関連資料および伝統船関連資料に関する調査を進め、その成果として資料目録データベースを作成する。
- (2) 朝鮮中近世交通路の研究：史資料(地図を含む)上にあらわれる地名を収集して「朝鮮歴史地名データベース」を作成する。また収集した地名の現地比定を精緻に行い、これらの地名を復元した歴史地図を作製する。
- (3) 朝鮮伝統船の研究：朝鮮船の特質について多角度から考究するとともに、造船・航海技術や信仰、乗船者の社会的位相と運航体系等、船に関わる社会史的研究を深化させる。
- (4) 個別事例研究：(1)～(3)の成果を参照しつつ、当時の水陸交通路・交通手段を利用した人と物の移動に関する事例研究を行う。

4. 研究成果

- (1) 資料調査：朝鮮中近世の歴史地理関連資料および伝統船関連資料に関する調査を進め、その成果として資料目録データベースを作成した。
- (2) 朝鮮中近世交通路の研究：古地図を含む朝鮮前近代の歴史地理関連資料上にあらわれる地名を収集するとともに地名の現地比定を行い、データベースを作製した。個別の事例研究を行うなか、必要に応じて地図を作製した。
- (3) 朝鮮伝統船の研究：当時の船舶の利用法の一つとして、朝鮮国王の陵幸時に設置された浮橋(舟橋)に注目した。朝鮮の歴代王は定期的に王陵への行幸(陵幸)を行ったが、漢江以南に存在する7つの王陵への行幸時には渡江のために浮橋が設置された。特に正祖代の華城園幸に関して比較的豊富な史料が伝わっており、浮橋の具体的な構造と渡江の様相について明らかにすることができた。
- (4) 個別事例研究：事例研究として国王の陵幸、士族の旅の記録を分析し、その成果を学会発表および論文のかたちで公表した。

なお、上記研究を進めるために、韓国釜山広域市、ソウル特別市、京畿道水原市および長崎県対馬市において現地調査を行った。釜山および対馬では、文献資料に見られる朝鮮伝統技術による外洋航行の様相を確認し、ソウルおよび水原では文献資料に見られる王の陵幸路を現地調査によって確認することができた。

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕(計 2 件)

長森 美信、一七世紀朝鮮士人と洛東江 『寒岡先生蓬山浴行録』を中心に、『朝鮮学報』
249・250 輯合併号、2019、1 37 頁、査読有

長森 美信、日本における韓国学研究の回顧と現況 天理大学と朝鮮学会を中心に、『慶
南学』34 (韓国・慶尚大学校慶南文化研究院) 99 121 頁 (韓国語)、123 139 頁 (日本
語)、2015、査読なし

〔学会発表〕(計 4 件)

長森 美信、書評：高東煥著『韓国前近代交通史』(トウルニョク、ソウル、2015 年)、朝
鮮史研究会関西部会 1 月例会 (於 河合塾梅田校セルスタ会議室) 2019 年 1 月 26 日

長森 美信、日本における韓国前近代史研究の現況と課題 朝鮮時代史を中心に、国際
学術シンポジウム「韓国における日本研究と日本における韓国研究」(於 韓国 漢陽大学
校) 2018 年 6 月 8 日

長森 美信、十七世紀朝鮮士人と洛東江 『寒岡先生蓬山浴行録』を中心に、朝鮮史研
究会関西部会 2 月例会 (於 河合塾大阪校セルスタ 3 階会議室) 2018 年 2 月 24 日

長森 美信、朝鮮時代の漢江舟橋 (浮橋) 第 67 回朝鮮学会大会 (於 天理大学) 2016 年
10 月 2 日

6. 研究組織

(1) 研究代表者

研究代表者氏名：長森 美信

ローマ字氏名：NAGAMORI Mitsunobu

所属研究機関名：天理大学

部局名：国際学部

職名：教授

研究者番号：50412135

科研費による研究は、研究者の自覚と責任において実施するものです。そのため、研究の実施や研究成果の公表等については、国の要請等に基づくものではなく、その研究成果に関する見解や責任は、研究者個人に帰属されます。